

---

# 神様の涙

龍川歌凪

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様の涙

### 【NNコード】

N6459C

### 【作者名】

龍川歌凪

### 【あらすじ】

最近、空の神様たちが泣いているようです。天使はその理由が知りたくて、地上に住む精霊のもとを訪れました。すると意外な答えが返ってきたのです・・・。

ある日、天使は悩んでいました。

なぜなら最近、よく空の神様達が泣いているからです。でも彼はまだ幼かつたから、神様達がどうして泣いているのかわかりませんでした。

直接神様達に尋ねても、「大丈夫だよ、気にしないで」、とはぐらかされてしまいます。

そこで天使は、下界に住む知り合いの精霊に聞いてみるとしました。

「あのせ、このごろ神さま達がよく泣いているのを見るんだけど、どうしてだかわかるかい?」

「ああ、そんなの簡単さ。神様達はね、人間のせいで泣いているんだよ」

「二ングンのせいで?どうして?」

天使はきょとんとしました。

「だつて人間は『神の名の下に』、とか、『神様の為に』、とか言って、同じ人間同士で傷つけ合ったり、殺し合つたりしているだろう?でも本当はね、神様達はそんなこと望んじやいないんだ。ただ彼らに、平和な世界で、幸せに生きてほしいって願ってるだけなんだよ」

精霊のその言葉に、天使はショックを受けました。

自分にできることならなんでもしようと思つていたけれど、こればっかりは彼の力だけではどうにもならなかつたからです。

「そつか、そうだったんだ·····じゃあ神様たちはどうやつたら元気になつてくれるのかな?」

「んー、そうだな·····。あ、じゃあさ、空にこれを持つていつてあげたらどうだい?」

精霊は天使にとある物を手渡しました。

空へと帰る途中、天使は精靈が別れぎわに言つていた言葉を思い出しました。

『もしかしたら、世界で一番かわいそつなのつて神様なかもしないな。だつて神様は【誰かの】願いを叶えることはできても、【誰かに】願いを叶えてもらうことはできないんだから……』

思い出すたびに、天使の胸はズキズキと痛みました。

天使は空に帰るとさつそく、空の神様の一人、太陽の神様が泣いているのを目りました。

しかし天使が見てているのに気づくと、太陽の神様はすぐさま涙を拭いてしました。

「太陽の神さま、また泣いていたの？」

「…………」

「…………ねえ太陽の神さま、じつちに来てください。おもしろいものを見せてあげるよ！」

「面白い物？」

「うん、こつちこつち！」

天使はぐいぐいと太陽の神様の手を引っ張つていきました。

そこは雲の切れ間でした。

雲と雲の間から、美しい地上の風景が顔をのぞかせています。

「いったい何を…………おや、それは…………？」

ここで太陽の神様はよつやく、天使がなにやら腕にカゴを提げているのに気づきました。

カゴの中には白い、米粒ほどの小さな花がたくさん入っています。

「花の精靈さんがくれたんです。ほら、見てください」

そう言つて、天使は力<sup>口</sup>の中の花を一掴みすると、雲の切れ間からパラパラと落とし始めました。

ふわりふわり。

風に乗つて落ちゆく姿はまるで雪のよつ。

「ほお、綺麗ですね・・・・・」

「でしょ？花の精靈さんが考えてくれたんだよー！」

「おや、そうだつたのですか。では後でお礼を言つておかなければなりませんね。・・・・・とにかくこのお花、なんという名前なのですか？」

「『オリーブ』っていうやうです。花の精靈さんが言つてたんだけどね、ニンゲンたちの間では『平和』をあらわすお花なんだって『平和を・・・・・』

「うん、だからね、これからぼく、世界中の空からこの『オリーブ』のお花を降らしていこうと思うんです。そうすればいつかきっと、平和を願う神さまたちの口<sup>口</sup>も、ニンゲンたちに届くだろうから・・・・・」

「・・・・え？」

「・・・・花の精靈さんから聞きました。神さまたちが泣いているのは、ニンゲンたちが争つてばかりいるからだつて」

「…それは・・・・・」

「ぼく、神さまたちのこと大好きだから、神さまたちのお願い、かなえてあげたいんです。・・・でもぼくたち天使には、神さまたちのような願いをかなえる力はないから・・・・・こんなことしかできなくなつてごめんなさい・・・・・」

天使はしょぼんとしてうつむきました。

すると太陽の神様は、天使の肩に優しく手を乗せ、言いました。

「ありがとう、そのお気持ちだけで十分嬉しいですよ。　ええ

きっと、あの花と共に、私達の心も彼らに伝わるはずです」

太陽の神様はにっこりとほほえみました。

どうやら天使のおかげで、ほんのちょっとぴり元気が出たようです。

「 うん！」

太陽の神様に励まされ、天使も満足そうにほほえみました。

そして二人は願いを込め、さらにもう一掴み、『オリーブ』の花を地上に向けて放ちました。

こうして天使は、神様達の心を人間達に伝えるため、今なお世界中の空から『オリーブ』の花を降らして回っているそうです。

さて、この『オリーブ』のお花、あなたの元にも届きましたか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6459c/>

---

神様の涙

2010年10月30日09時37分発行